

かわさき区の宝物シート

宝物No.	だいいなりじんじや 大師稻荷神社
9-1	

エリア	大師地区	シーズン	通年
	中瀬・大師河原	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



写真提供：NPO法人かわさき歴史ガイド協会

所在地	7
問い合わせ	大師稻荷神社
TEL	044-277-1622
FAX	044-277-1622
E-mail	
URL	
交通	川崎駅よりバス「中瀬三」下車徒歩1分



基礎情報

■創建年代は不明だが、往古洲崎の海中に出現した十一面観音（大蔵神）を源義家の旧臣・平間兼乗が拾いあげ祀ったのが始まりとされ、一説には亀の背に乗って出現したとも伝えられている。なお同じく兼乗が海から弘法大師像を引き上げて祀ったとされるのが川崎大師平間寺の由来である。

■本殿と拝殿には人物や動物、花鳥など多種多様な彫刻が保管されている。天保5年(1834)に平間寺の本堂が再建された際、彫刻師の後藤富五郎の孫である富八が制作したものとされている。境内の手水鉢は元文5年(1740)に川中島、大師河原、稻荷新田村の3村によって奉納されたものである。

由来・エピソード

■殿町、江川町、田町、日ノ出町のあたりはかつて「稻荷新田村」と呼ばれた。元禄10年(1697)までは「大師河原新田」といったが、鎮守であった大師稻荷神社が新田開発に御利益があったため稻荷新田と改名されたという記録が残る。現在は中瀬町のみ鎮守であるが当時は大師地区で広く信仰されていた。

■そんな氏子地域が広がった頃、祭礼には流鏝馬（やぶさめ）や神楽も奉納されて近郷近在から大勢の人々が集まりにぎわったといわれる。土地の生まれである笛の名手・中山安太郎によって広められた「中瀬囃子」は、大戦中に継承者がいなくなり絶えてしまった。戦後になって羽田から連を招き昔を懐かしむにとどまっていたものが、昭和53年(1978)秋の祭礼時に期せずして復活の声があがり、神社と町会の呼びかけによって有志が集い「稻瀬会」という保存会の設立に至った。8月の大師稻荷の祭礼の他、稻毛神社の獅子舞（1月）、祭礼（8月）、酉の市（11月）や若宮八幡宮の祭礼でも披露されている。

補足・その他

関連シート

- (1-13) 稻毛神社
- (6-10) 中島八幡神社祭囃子
- (10-3) 若宮八幡宮・若宮郷土資料室
- (10-17) 川崎大師平間寺